会報

第 106 号
平成25年２月19日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025（265）4111
Fax 025（265）4112
発　行：文　久　堂

子どもたちの将来を見据えた特別支援教育の充実を

新潟県特別支援教育研究会
副会長　丸山　修

当会の事業の中心である、四部会（知的障害部、自閉症・情緒障害部、言語・難聴部、肢体不自由・病弱・身体虚弱部）の研修会、地区ごとの研究大会が予定通り実施され、大きな成果を上げました。

私が担当している中越地区では、加茂・田上の校長会が長岡大会終了直後から実行委員会を立ち上げ、迅速かつ丁寧に準備を進めました。その熱意と素晴らしい行動力に、大会会長として頭が下がる思いでした。その甲斐あって、大会は分科会、講演会とも大盛況・大成功でした。講師の諸富祥彦先生の独特の講演スタイル・内容にも驚かされました。大会要項の「あいさつ」の中に、特別支援教育に対する私の思いが詰まっていますので、その要約を記し、巻頭言とさせていただきます。

特別支援教育が本格的に実施されてから六年目になり、特別支援教育への理解が進み、多くの学校で特別支援教育を学校運営の重要な柱と位置付け、一人一人の子どもを大切にした支援・指導に取り組んでいます。一人一人の教育的ニーズを的確にとらえ、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、日々の授業や指導・評価に活用していくことで、きめ細やかな支援をいっそう充実させてきました。その一方、「問題行動には意味（原因）がある。問題行動を抑えるのではなく、積極的行動支援が必要ではないか」「手厚い支援が依存につながり、子どもの自立を妨げかねない」等の指摘もあります。目の前の子どもの状況に応じた支援はもとより、子どもたちの将来を見据えた支援が大切です。この意味からも、学校と保護者、関係機関、地域社会等との連携と協働がいっそう重要になってきます。

（中略）これからの特別支援教育は、学校教育の枠にとどまらず、特別支援教育の理解・啓発を地域社会にも働きかけ、障害のある子どもが、現在及び将来にわたって、地域社会の中で豊かな生活を送る、当たり前の共生社会の実現を目指さなければならないのです。

このようなときに、本大会が、昨年の長岡大会の主題を踏襲しつつ、副題に「共生社会の形成に向けた支援の連携と協働」を掲げ、六つの分科会で様々な課題について研究協議が行われることは誠に意義深いものがあります。大会に寄せる期待もたいへん大きく、ここでの発表内容や協議された成果を各学校等に持ち帰り、日々の取組に生かしていただきたいと願っております。

24年度　主な事業報告

〈理事会・評議員会〉
第一回理事会・評議員会（５月31日）
第二回理事会（２月１日）

〈研究大会〉
・上越地区・糸魚川大会
（８月22日・糸魚川市ふれあいセンター他　約460名参加）
・中越地区・加茂田上大会
（11月28日・加茂文化会館他　約400名参加）
・下越地区・新潟大会
（11月29日・新潟ユニゾンプラザ他　約200名参加）

〈研究部研究会〉
・知的障害部
（８月９日　白根学習館　145名参加）
・自閉症・情緒障害部
（８月１日　万代市民会館　223名参加）
・言語・難聴部
（７月27日　新潟ふれ愛プラザ　70名参加）
・肢体不自由・病弱・身体虚弱部
（８月３日　見附市立今町小学校　35名参加）

〈全特連関係〉
・関ブロ長野大会／発表２名司会２名派遣
（８月10日　若里市民文化ホール他）
・全国大会北海道大会／発表１名派遣
（９月20日、21日　札幌市民ホール他）

〈会報〉
・会報105号発行（７月）
・会報106号発行（２月）

平成24年度　各地区大会報告

上越地区・糸魚川大会

八月二十二日、ビーチホールまがたまを全体会場に標記大会が行われました。

当日は、四百六十名の参加者が特別支援教育の今日的な課題と向き合い、成果を共有しました。

内容面では、糸魚川市が提唱する「子ども一貫教育方針」を意識した発表がなされ、特色ある大会になりました。例えば、六つ分科会すべてで当市から話題提供者を出し、行政（乳幼保）・小中学校・高校・事業所と、一貫した事例を紹介できたことは大きな成果でした。また、当日は昨年度完成した「相談支援ファイル」も会場に展示され、開催地としての意気込みを見せることができました。

運営面では、市校長会と市教研特別支援教育部の五十名が実行委員として準備を進め、それぞれの立場で強みが発揮できるよう作業分担を工夫しました。また、前年度から県や全国の動向を学ぶ機会を設定するなど、計画的な研修に努め、理論的な面でも研鑽を積んで本大会に臨みました。

＜上越大会＞

講演会も好評でした。近年、多くの教師が「通常学級における特別な支援を要する児童生徒をどのように理解し、対応すればよいのか。」という難題と向き合っています。本大会の講師佐藤慎二先生はこの分野では著名な方です。先生のユーモアの中にも核心を突いた講演に感銘を受けた参会者が多かったのではないでしょうか。アンケートからも高い評価が伺えました。

（事務局　糸魚川市立大和川小学校）

中越地区・加茂田上大会

大会主題「地域の中で豊かに生きる力をはぐくもう～共生社会の形成に向けた支援の連携と協働～」のもと、分科会と全体会（講演会を含む）を行いました。地区内から、幼保・小・中・特別支援学校の教職員や保護者等四百名を超える参加がありました。

分科会は、①幼・小・中、②小学校、③中学校、④通常学級、⑤通級指導教室、⑥学校・家庭・地域・関係機関、それぞれにおける連携と協働をテーマに六分科会に分かれて行われました。今までと違う分科会構成に戸惑われた方もいましたが、話題提供者の話をもとに話し合いを深めることができました。

全体会では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事、今井聡己様から「本県の特別支援教育の現状と課題」というタイトルでご指導を頂きました。また、講演会では、明治大学文学部教授の諸富祥彦様様から「発達障がいの子を含め、すべての子が生きる学級づくり」という演題で講演をいただきました。「すべての子どもが受け入れられている学級、温かい雰囲気のある学級をつくることが、通常学級における最高の特別支援である。そのため、次のことを大切にしてほしい。①自尊感情、自己肯定感を高めること。②発達障がいの子どもを自分の子どもと同じような目線で見ること。③落ち着いた生活を送るためのルールを徹底すること。」ユーモアのある語り口で分かりやすくお話しくださいました。目指す特別支援教育を確実に進め、共生社会の実現に向けた連携と協働の在り方に迫ることのできた大会でした。

＜中越大会＞

（事務局　加茂市立葵中学校）

下越大会・新潟大会

研究主題「可能性と個性を伸ばす特別支援教育の在り方を求めて」の下、二百十三名の参加者（大会役員を含む）が集い、熱心な協議を繰り広げた。

全体会では、県義務教育課特別支援教育推進室の根津博人指導主事の「本県の特別支援教育の現状と課題」と題した全体指導があった。その中で新潟県の課題として、①対象児童生徒の増加、②通常学校の校内支援体制の整備、③進路希望に応じた就労支援、④教員の人材確保と育成、⑤個々の教育的ニーズに応じた教育の実現、の五点が指摘され、目指すべき方向が語られた。

分科会は、前年の阿賀町大会の成果を継承し、「通常学級での支援」部会を含めた六

分科会構成とした。各分科会の主な協議題は、第一～校内支援体制や外部機関との連携を進める上での工夫、第二～児童に自信をもたせる活動や支援の工夫、第三～中学校教科担任間の連携と進路相談の在り方、第四～授業のユニバーサルデザイン化の工夫、第五～通級指導教室における子どものニーズの共通理解の図り方、第六～発達障害の正しい理解や支援を家庭・地域にどう広げるか、並びに生徒の自立を助ける協働の在り方、である。この内、第四分科会では、新潟市立白新中学校の竹田真実子教諭の発表を受けて、参加者全員によるグループ討議が行われ、活発な意見交換がなされた。参会者の参画意識を高める分科会運営の方法として、良い試みであると思われた。

＜下越大会＞

大会アンケートでは九十三％が好評価で、記述には「発表に胸が熱くなりました。生徒に持ち帰りたいと思います。」とか、「子どもの将来を見据えて支援をしていかなければならないと気持ちが引き締まりました。」、「発表や協議を聞いて、日頃の自分の指導を振り返ることができました。」などの感想が見られた。普段、困難な状況下で奮闘している参会者が、大会を通して有意義な情報に接し、個々の課題解決のヒントを得ることができたことが伺える。

（事務局　新潟市立栄小学校）

全特連報告

関ブロ・長野大会（県内派遣：発表者２名・司会者2名・本部役員2名）

提案発表「特別支援学級における基本的な表現能力の育成と楽しさや喜びを感じ取らせるための試み」
村上市立猿沢小学校　澤野　雅子教諭

提案発表「特別支援学校高等部における職業教育の充実」
新潟大学附属特別支援学校　酒井　慎一郎教諭

関ブロ・長野大会に参加して

新潟大学附属特別支援学校　酒井　慎一郎教諭

午前中の全体会に続き、午後の分科会では、第17分科会「高等部教育」に参加しました。分科会では、当校独自の指導の形態である「職業生活にかかわる学習」について報告させていただきました。参加者の皆様から多くのご意見をいただきました。

また、指導者の菊池一文先生（特総研　主任研究員）からも今後の課題について示唆をいただきました。

いただいたご意見を参考に、高等部における職業教育の更なる充実に向けて取り組んでいきたいと思います。

このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

祝　全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

大野　俊哉（前副会長・県立高田特別支援学校長）

長年にわたり当県の特別支援教育の発展に貢献され全国大会で表彰されました。

全特連全国大会・札幌大会（県内派遣：発表者１名：本部役員3名）

提案発表「職業教育と進路指導・就労支援」　県立江南高等特別支援学校　久保田　健教諭

全国大会・北海道大会に参加して

県立江南高等特別支援学校　久保田　健教諭

特別支援学校における就労への取組は、全国的にも大きな高まりを見せています。分科会会場となった小樽高等支援学校は四年目の新設校で、外観も設備も、従来の特別支援学校とは大きく異なり、地域住民との交流や企業との連携を意識した積極的な取組が行われていました。学校の正面入り口には「カフェ」のメニュー看板が設置され、入るとまさしく喫茶店。地域に開放され、生徒が入れたコーヒーやお菓子を、地域住民に提供しています。五つの学科（木工科、環境・流通サポート科、福祉サービス科、生活技術科、生活家庭科）は地域の企業と正式な契約を結び、製品を製造・納品しています。本物を通して専門性と働く力を実践的に学んでいる生徒は、自信に満ちた表情で活動していました。分科会での情報交換から、このような取組は、全国的にも標準になりつつあると感じました。設備を整えることによる成果もありますが、企画や経営の工夫、地域と友好に連携する努力など、教師のマネジメント力を高めることが、何より必要だと思いました。

24年度各研修部の研修の成果

自閉症・情緒障害部

早稲田大学大学院教職研究科准教授高橋あつ子様より「多様な学び手に応じる授業～ユニバーサルデザインの視点から～」と題してご講演いただいた。ユニバーサルデザインの授業化について、①理論②環境づくり③授業づくりの三つの視点より、具体的方法・手順について学ぶことができた。子どもの多様なニーズに対して、より確かで豊かな学びを成立させたいと願う参会者の思いや願いを具現する講演内容だった。参会者の多くからユニバーサルデザインの授業化への実践意欲を高めることができ、大変有意義な研修会だったという感想が寄せられた。

知的障害部

生活単元学習「エコキャップを集めよう」の協議会を行った。子どもが「集めて良かった。」という達成感をもつには、どのような支援や手立てが必要か等、参加者からいろいろな意見が出され、活発な協議が行われた。

指導主事からは、生活単元において一連の組織的な活動を組むには、まず入口と出口を決めることが重要であるというご指導があった。今回であれば「役に立ちたい。」が入口で「役に立ててうれしい。」が出口である。子どもが、願いの実現に向け、どうすればいいか考えていく活動が大切であるとわかった。

肢体不自由・病弱・身体虚弱部

長岡市教育委員会心理士の田口愛子様より「ＷＩＳＣ-Ⅳの分析と解釈」というテーマで講義をしていただいた。

ＷＩＳＣ-Ⅲで用いられた「言語性・動作性ＩＱ」が廃止され、それに代わる「全検査ＩＱ」と「四つの群指数」によって、その子の特性をより多面的に見られるということがよく理解できた。また、当部会の会員が担当する児童生徒には重複障害が多く、発達の見取りが欠かせない。そういった意味で大変興味深く、有意義であった。質疑では、検査キットや具体的な検査方法についてなど多数の質問があり、活発な研修会となった。

言語・難聴部

「人工内耳とことば」と題して、明倫短期大学准教授大平芳則様より、御講演をいただいた。聞こえていること＝聞いたことばの意味が分かる、ではないということをまず参会者が実際に体験し、理解を深めた。人工内耳の専門的な内容から手術を受ける子どもと親への精神的なケアに至るまで幅広く御教示いただいた。

会員相互の情報交換会では、日ごろ接することの少ない上・中・下越の担当者が共通の課題ごとにグループに分かれ、親睦を兼ねながら実践を紹介し合うことができた。

編集後記

県特支研だより No.「106号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜わりました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。（事務局）

県特支研のHPがリニューアルしました

メールアドレス：tokusi@niigata-inet.or.jp

特別支援学校のセンター的機能として各学校の貸し出し可能教材部品を一覧にしました。

特別支援学校センター的機能

貸し出し可能教材備品一覧

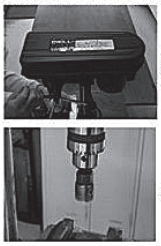
新潟県特別支援教育研究会の新規の取組として、各特別支援学校のセンター的機能の一つである「障害のある幼児児童生徒への備品等の提供機能」について調査し一覧表にまとめました。特別支援学校の活動や学校が行う児童生徒の実態把握などにいかせるものがあるようです。校名をクリックすると各校の貸し出し可能教材一覧が表示されます。詳しい内容については、各特別支援学校にお問い合わせください。

1	新潟県立新潟盲学校
2	新潟県立新潟聾学校
3	新潟県立江南高等特別支援学校
4	新潟県立西陵高等特別支援学校
5	新潟県立東新潟特別支援学校
6	新潟県立はまぐみ特別支援学校
7	新潟市立東特別支援学校
8	新潟市立西特別支援学校
9	新潟大学教育学部附属特別支援学校
10	新潟県立村上特別支援学校
11	新潟県立村上特別支援学校いしみの分校
12	新潟県立駒林特別支援学校
13	新潟県立五泉特別支援学校
14	新潟県立佐渡特別支援学校
15	新潟県立月ヶ岡特別支援学校
16	新潟県立吉田特別支援学校
17	見附市立見附特別支援学校
18	新潟県立長岡養学校
19	長岡市立総合支援学校
20	新潟県立柏崎特別支援学校のぎく分校
21	新潟県立柏崎特別支援学校
22	新潟県立はまなす特別支援学校
23	新潟県立小出特別支援学校ふれあいの丘分校
24	新潟県立小出特別支援学校
25	新潟県立新潟盲学校　高田分校（休校）
26	新潟県立上越特別支援学校
27	新潟県立高田特別支援学校
28	新潟県立吉川高等特別支援学校
29	妙高市立にしき特別支援学校
30	新潟県立高田特別支援学校ひすいの里分校

中古テニスボールの穴開け機械の紹介

① 中古のテニスボールを机や椅子の脚のカバーとして再利用している学校が多くなっていますが、簡単にでも開ける方法がないかとの声を耳にします。そこで、渡瀬小学校の伊藤治郎先生します。

② テニスボールに穴を開ける作業は、ドリルでトンネル穴を開けそこにナイフで十字に切り込みを入れるやり方で行っていました。しかし、結構大変な作業で、ナイフで手やけがを切ると心配もあろうえ、長時間たつと十字に開けた穴が大きくなって、外れやすくなりました。今年度、作業がとても楽になる機械が、手作り部会員で見つけりましたので紹介します。



テニスボールの穴開けにちょうどよい手上ボール盤です。値段はいろいろですが、これは、ホームセンターで7,980円で販売していました。消費税で購入しました。

穴開け用の歯は、机・椅子の脚の太さによりますが、25mmがちょうどよい大きさです。（別売）

お役立ち情報として中古テニスボールの穴開け機械を紹介しています。

第51回　全日本特別支援教育研究連盟全国大会　北海道大会

全特連の大会や各地区大会、研究部研修会の様子がみられます。

長野大会